

子どもが自ら遊びを考えつくり出す保育実践

— 恐竜遊びを通して —

中 村 共 芳 [鹿児島大学教育学部附属幼稚園]

Implementation of childcare in which children invent their own game

— Example of “the dinosaur game” —

NAKAMURA Tomoka

キーワード：保育 子ども 遊び 主体性 工夫

1. 幼稚園での遊びとは

平成30年度から、幼稚園教育要領が改訂されるが、環境を通して行う教育を基本とすることや、遊びを通しての指導を中心として行うことは変わらずに示されている。

環境を通して行う保育では、幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合い成り立つものであるとされる。教師主導で一方的に保育を行うのではなく、子どもが自ら周囲の環境に働きかけ、子どもなりの試行錯誤を繰り返して展開していくことが大切である。そうして活動を進めていくことが遊びであり、この遊びそのものが子どもにとっての学びである。

2. 本園の保育について

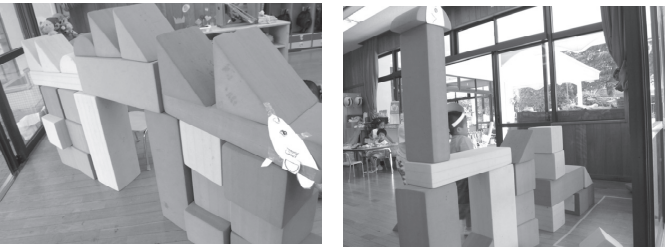
本園では、子どもたちが好きな遊びを見付け、思う存分取り組むできる保育を行っている。教師は、その姿を認めながら、更に子どもたちが工夫したり考えを深めたりすることができるように、援助を行っている。子どもたちに身に付けてほしい力をどの遊びを通して指導するのかについては、一人一人の子どもによって異なる。


本報告では、年中児の子どもたちの恐竜をテーマにした遊びの様子を追い、その中で子どもたちがどのような思いで遊びを考え、進めていくのか子どもの姿についてまとめた。

3. 事例

3.1. 恐竜ショー（9月）

遊びの流れ	子どもの姿・教師の関わり
○ A児がソフト積み木を組み合わせて恐竜をつくった。	首の長い恐竜(ブラキオサウルス)と背中に骨板がある恐竜(ステゴサウルス)2種類をつくった。足は2本であったが、ブラキオサウルスは、直方体の積み木を縦に重ねることで首の長さを表し、ステゴサウルスは、三角柱の積み木を背中に並べることで骨板を表すなど、体の特徴を捉えて表していた。

<p>○ 顔をつける方法がないか考える。</p> <p>○ 紙に描いた顔を積み木に貼った。</p> <div data-bbox="303 799 525 879" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ステゴサウルス(左) とブラキオサウルス</p> </div> <p>○ C児が恐竜に興味を示して加わった。</p> <p>○ みんなに紹介する場として恐竜ショーを開くことになった。</p> <p>○ 椅子を並べて準備をした。</p> <p>○ どの恐竜のどんな特徴を説明するのか確かめ合った。</p>	<div data-bbox="554 181 1195 343" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師の思い 積み木で恐竜の体の特徴を表そうとしていて、おもしろいな。顔まで表せたら、もっと恐竜らしさを出せるかもしれないな。</p> </div> <p>教師「何をつくっているの？」</p> <p>A児「こっちがブラキオサウルスで、こっちがステゴサウルス」</p> <p>教師「お顔がかけたらいいけど、積み木だからかけないね」</p> <p>A児「紙にかいて貼ればいいんじゃない？」</p> <p>教師も「なるほど。それなら積み木にかかなくてもいいもんね」</p> <p>A児は、大きな紙に目と口をかき、顔の積み木の形に合わせて切り取り、積み木にセロハンテープで貼り付けた。</p> <div data-bbox="546 693 1208 937" style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>C児も加わり、毎日のようにソフト積み木で恐竜をつくるA児とB児。</p> <p>教師「これ、お友達にも紹介したらおもしろいんじゃない？」</p> <p>B児「いいね。恐竜ショーをしよう」</p> <p>A児「いいね」</p> <p>C児「しよう。しよう」</p> <p>「恐竜ショー」のために、つくった恐竜の前に椅子を並べ、「恐竜ショーがあります」と周りの友達に呼び込みを始めた。</p> <div data-bbox="554 1309 1195 1472" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師の思い それぞれが思い思いに言うのではなく、聞いている友達に分かりやすい説明ができればいいな。説明の内容を確認しよう。</p> </div> <p>教師「ちょっといいかな」</p> <p>A児・B児・C児が集まった。</p> <p>教師「言うことは何を言うのかな？」</p> <p>B児「これはね、ブラキオサウルスです。首が長くて、草を食べて、大きな恐竜です」</p> <p>C児「これはステゴサウルス」</p>
---	---


<p>○ 恐竜ショーを開き友達に恐竜の名前や特徴について説明した。</p> 	<p>A児「ステゴサウルスがでこぼこしているの」 教師「なるほど。恐竜のお名前と、首が長いとか背中にうろこがあるとかの体の特徴、そして何を食べるのか、お肉なのか草なのか、が言えると見ている人が分かるかもね」 周りの子どもたちが集まり、恐竜ショーが始まった。それぞれの子どもが恐竜について説明した。A児・B児・C児は、教師が用意した恐竜のお面を被り、つくった恐竜の横に立って、それぞれの恐竜について、名前と食べるもの・体の特徴について説明をした。 それから、毎日のようにソフト積み木を組み合わせて恐竜をつくり、恐竜ショーを開いた。</p>
---	---


【考察】

遊びの原動力となるもの、それは「これがしたい」「もっとしたい」という子どもの気持ちであると考え。恐竜が好きなA児・B児・C児の3人は、大好きな恐竜をソフト積み木を使って表した。どうしたら恐竜の特徴を表すことができるか考え、積み木の形を利用し組み合わせ、紙に顔をかいて貼ることを思いついた。教師として、工夫しようとする気持ちや、他の友達に知らせたいなという思いを大切にしたい。

3. 2. 空き箱で恐竜づくり（11月上旬）

遊びの流れ	子どもの姿・教師の関わり
<p>○ ソフト積み木を使って恐竜をつくって遊んだ。</p>	<p>A児たちがソフト積み木を使い、恐竜をつくって遊んでいた。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>教師の思い ソフト積み木で恐竜づくりをすると、積み木の数が限られていて、つくることができる恐竜に限りがある。また、片付けのときに崩さなくてはならないため、残しておくことのできる恐竜をつくれたらいいな。</p> </div>
<p>○ ソフト積み木以外のもの で恐竜をつくる方法を考えた。</p>	<p>教師「積み木だと片付けないといけないね。残しておけたらいいのにな」 B児「空き箱がいいんじゃない？」 教師「なるほど、空き箱なら残しておけるし、いろいろな大きさの箱もあるしね」</p>
<p>○ 空き箱で恐竜をつくり始めた。</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>教師の思い 空き箱を使うことで、積み木のときには出せなかった細かい特徴まで表すことができたらいいな。特徴に目が向くようにしよう。</p> </div>


<p>○ 積み木のときは足が2本だったが、足を4本にした。</p>	<p>教師が様々な大きさの空き箱を用意した。3人は空き箱を組み合わせて恐竜をつくり始めた。</p> <p>教師「恐竜って、本当は足何本なんだっけ？」</p> <p>A児「4本だよ。ブラキオサウルスとかはこうなってて、ティラノサウルスはこうなってるの」</p> <p>A児は恐竜による足の違いを体を使って表した。</p> <p>教師「そうなんだ。じゃあ箱はたくさんあるから本当に4本足にできそうだね。」</p>
<p>○ 恐竜ショーを開くことにした。</p>	<p>積み木の恐竜は2本足だったが、空き箱にすることで、4本足の恐竜になった。1つ恐竜をつくり終わると、また新しい恐竜をつくり始めた。</p>
<p>○ 誰がどの順番でどの恐竜を紹介するのかについて話し合った。</p>	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師の思い</p> <p>子どもが前の経験を思い出し、友達に紹介する方法を考えたことができたな。分かりやすく聞いてもらうための方法を考えていけるようにしよう。</p> </div> <p>教師「たくさんできたからみんなにも見せたいね」</p> <p>C児「恐竜ショーをしよう」</p> <p>B児「いいねえ。しようしよう」</p> <p>教師「ショーでは、誰がどの恐竜を紹介しようか？」</p> <p>A児「僕はブラキオサウルス」</p> <p>B児「僕ステゴサウルス」</p> <p>C児「ティラノサウルス」</p> <p>教師「一緒に言ったら分からないから一人ずつがいいかもね」</p> <p>B児「じゃあ、僕が先に言うね」</p> <p>A児「じゃあ、次僕ね」</p> <p>C児「その次僕」</p> <p>教師「順番はAくん、Bくん、Cくん、の順番ですのね。言うことは何だったっけ」</p>
<p>○ 恐竜ショーを開いた。</p> 	<p>B児「これは、ブラキオサウルスです。大きくて首の長い恐竜です。草を食べる草食恐竜です。」</p> <p>教師「そうだったね。名前と体の特徴と食べるものだったね」</p> <p>集まった友達に向けて、つくった恐竜を持ちながらその恐竜について説明をした。</p>

<p>○ 降園活動でクラス全員に紹介した。</p> 	<p>教師の思い 遊んでいる友達だけでなく、クラスの他の友達にも知らせたいな。降園活動の時間にみんなに紹介しよう。</p> <p>降園活動で、クラス全員の前に立ち、それぞれが自分でつくった恐竜について説明した。</p>
---	--

【考察】

11月になり、再びソフト積み木で恐竜づくりをする子どもたちの姿があった。ソフト積み木よりもよい材料はないか考え、空き箱を組み合わせてつくることになった。教師として、より本物を意識した恐竜づくりができるように、図鑑等を用意しておくなど意識した。

3. 3. 恐竜博物館ごっこ（11月中旬）

遊びの流れ	子どもの姿・教師の関わり
<p>○ B児が「恐竜博物館」を提案した。</p>	<p>空き箱を使って恐竜をつくっていた。</p> <p>教師の思い 恐竜ショーとはまた違った形で、友達に紹介できたらいいな。たくさん恐竜をつくって、ずらっと並べて展示したいな。</p>
<p>○ 「恐竜博物館」のイメージを共有した。</p>	<p>B児「恐竜博物館にしよう」 他の子どもたちも賛成する。 教師「恐竜博物館って、どんな風になっているのかな」 B児「ばーって恐竜が並んでて、歩いてみるの」 教師「なるほど。たくさん恐竜が並んでいて、お客さんが歩きながら恐竜を見るんだね。じゃあ、たくさん恐竜をつくらないといけないね」</p> <p>子どもたちは、それぞれが作りたい恐竜をつくり始めた。</p>
<p>○ 恐竜博物館に向けて恐竜をつくり始めた。</p> 	<p>教師の思い もっと恐竜らしさを出すために、図鑑等を見て、本物らしさに注目できるようにしよう。その特徴をどうやったら表せるか、その方法も考えていきたい。</p> <p>教師「これは何ていう恐竜？どんな特徴があるのかな」</p>
<p>○ 本物の特徴を表現する方法を考え、図鑑を見てみた。</p>	<p>A児「トリケラトプス。大きな角が3本」 教師「じゃあ角は顔のどのあたりについているのかな」 A児「・・・。ちょっと図鑑持ってくる」</p>

○ 図鑑と自分の恐竜を見比べながら、特徴を表すようにつくった。

○ 恐竜博物館を開くためにどんな準備が必要か話し合った。

○ 恐竜博物館を開くための準備をした。

○ 役割分担を話し合う。



A児がプレイルームの本棚から恐竜の図鑑を持ってきて、見始めた。角がある場所やひだの数を数え、その数だけ細い空き箱をつけ始めた。



恐竜が少しできあがってくると、さっそく恐竜博物館として、友達を呼ぼうとし始めた。

教師の思い

恐竜博物館への期待が高まっている。どんな準備が必要か考えて進めていくことができるように、教師も一緒に入って話し合おう。

教師「お客さんはどこから入るの？」

B児「テープで道を貼ったらいいんじゃない？」

教師「なるほどね。他にはどんな準備が必要かな」

C児「チケットがいる」

A児「看板もいるよ」

A児が大きな画用紙に看板をかき、B児が、通路をビニールテープで示すことにした。C児は友達に配るチケットをつくった。

教師は、図鑑をコピーして名前をかいたものを用意し、つくった恐竜の横に置いた。

教師の思い

恐竜博物館に向けて、それぞれの子どもが自分のすべき準備を進めているぞ。友達が来た時の役割の分担もすることで、より友達に楽しんでもらえるようにしたいな。

教師「そろそろお客さん呼べそうかな」

A児「うん。」

教師「みんなはお客さんがきたときにどんな仕事をするのかな」

A児「ぼくは『ここです』っていうんだ」

C児「これはティラノサウルスで、肉を食べる恐竜です」

B児「『ありがとうございました』っていうんだ」

教師「Aくんは入り口でチケットを受け取って、中へどうぞってする人ね。Bくんは中で恐竜の説明をする人で、Cくんは出口でお礼をいう人ってことだね。」

○ 恐竜博物館を開き、友達を招き、案内した。	恐竜博物館を開き、見に来た友達を中に案内して、恐竜を見てもらったり説明したりした。子どもたちは、それぞれ決めた自分の役割を進めた。
------------------------	---

【考察】

つくった恐竜を見せたいという思いから、恐竜博物館を開くことになった。空き箱で恐竜をつくったことにより恐竜の数が増え、以前の恐竜ショーとは形を変えて紹介の場をつくることのできた。教師として、「見せたい」という思いだけでなく、見に来た友達が喜んでくれるようにと考えて、準備をしていく姿を大切にしました。

3. 4. 恐竜展ごっこ（1月）

遊びの流れ	子どもの姿・教師の関わり
○ 恐竜展に行った思い出を話し合う。	冬休みの間に、恐竜展を見に行った子どもが感想を伝え合っていた。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>教師の思い 恐竜展を見に行った子どもは多かっただろうな。ティラノサウルスの骨格標本の迫力を出すことができればいいな。</p> </div>
○ 「恐竜展」がしたいとB児が言い出した。	B児「恐竜展をしよう」 A児「いいね。ティラノサウルスにしよう」 教師「(図鑑の生きている状態の絵と骨格標本の写真を示し)、 どっちの恐竜をつくるの」
○ どんな恐竜展にしたいのか話し合い、骨格標本をつくることにした。	B児「こっち(骨格標本を指さした)」 教師「どうしたら骨みたいになるかな」 B児「箱をつなげるのは(どうかな)」 教師「でも、骨ってもっと細いよね？新聞紙とか使えないかな」 B児「分かった！こうしたらできる」 B児は、新聞紙を丸めて棒状にした。
○ 図鑑の骨格を見ながら骨格標本をつくり始めた。	A児「いいねー」 教師「なるほど。これなら細くて長い骨ができるね。じゃあ新聞紙たくさん持ってくるね」 子どもたちは新聞紙を丸め始めた。まずは背骨をつくり、そこに組み合わせるようにして肋骨のように丸く輪にして貼り付けていった。



<p>○ 頭の部分をどうしたらいいか考えて、紙袋を使うことにした。</p> <p>○ 紙袋を使って頭をつくって、歯もつけた。</p> <p>○ 見に来た友達に恐竜を紹介した。</p>	<p>教師「頭のところはどうする？」</p> <p>A児「段ボールは？」</p> <p>B児「重たいんじゃない？」</p> <p>A児「箱？」</p> <p>B児「大きいのある？」</p> <p>教師「大きくて軽いものかあ。紙袋とか？」</p> <p>B児「いいんじゃない？」</p> <p>A児が紙袋に穴を開け、目の部分をつくった。C児が折り紙を折って歯をつくり、袋の口の部分に並べてつけた。</p> <p>頭の部分を固定するため、頭の部分を紐で吊るした。</p> <p>できあがった恐竜を見に友達がやってきた。A児とC児は恐竜の名前や骨の説明などをした。</p>
---	---



【考察】

自分が経験したことを、早速遊びに取り入れようとする子どもたちの姿があった。これまでとは違った、骨格標本をつくるためにはどうしたらいいか考え、新聞紙を使って骨の様子を表した。教師として、より本物らしくしたいという子どもの思いを受け止め、その思いを形に表す援助を行うことで、子どもたちが更に意欲を抱くことへとつながっていくと考える。

4. 子どもが遊びを考えつくり出すということ

これらの事例のように、自ら考えつくり出していく遊びの中で、子どもたちは「もっとこうしたい」という思いをもち、そのためにはどうしたらよいか、材料や方法について考え、工夫する力を身に付けていく。また、同じ遊びに関わる子どもたちとの話合いを通して、自分の考えの伝え方、友達の意見の受け入れ方についても経験をしていく。また、他の友達を自分たちの遊びに誘うときには、どのように対応したらよいか、考えていかなければならない。

教師として、子どもが興味をもったことに自ら関わり、自ら考え、遊びをつくり出していくことができるように、子どもの考えを受け止め、更に引き出すことができるような関わりをしていかなければならない。そして、子ども同士の関わり場の場をもつことができるように、必要に応じて話合いの場を設け、遊びをどのようにしていくのか、自分たちの考えを出し合うことができるように支援していくことが必要である。

参考文献

- 幼稚園教育要領解説（文部科学省）
- 幼稚園型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 中央説明会資料
（内閣府 文部科学省 厚生労働省）